



3日ぶりの青空したのでキンモクセイの甘い香りがかぐことができました。夏に涼しい山で成熟したアキアカネが姿を現し、林の縁でオツネトンボに久しぶりに出会いました。カラスウリやカキがほど良く色づき、ススキが風に揺れ、やっと秋がやってきたようです。これで長い残暑ともお別れです。



アキアカネ

残暑長かったので、姿を見るのが遅くなった気がします。雄も雌いました。腹部の上面が朱色に色づいていました。すぐ止まるトンボです。

セイタカアワダチソウ



(上)キゴシ
ハナアブ
(下)セイヨ
ウミツバチ



ハナアブやハナバチ、ハエがたくさん花粉を食べにきていました。

セセリチョウ



(左)イチモンジセセリ (右)チャバネセセリ イチモンジは白紋が一行に並んで見え、チャバネは白点が扇状に並んでいます。セセリチョウは胴が太く、素早く飛びます。



ウラギンシジミ

白い翅を見せながら素早く飛び回っています。幼虫がクズの花を食べて蛹になり、最近成虫になったチョウです。このまま成虫で冬を過ごします。



ヤマトシジミ

翅の裏は白く黒い斑点のみで、じっと見ていると徐々に羽を広げ右のように表の色を見せてくれます。



クチナシの実



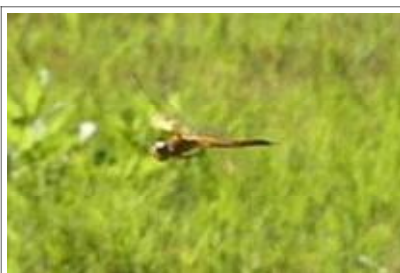
実は熟しても割れません。ヒヨドリなどが好んでこの実を食べに来ます。

カロテンという色素を含むので食品の着色料として利用されています。



シモツケ

下野の国(栃木県に当たる)にちなむ名前です。5弁花で雄しべが長いです。初夏の花ですが、切り戻されると秋にも咲きます。



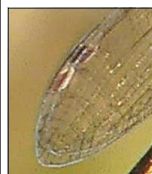
ウスバキトンボ

草地の上をすいすいと飛んでいました。このトンボは春に南の国で生まれて、本州を北上していますが、この辺りの気候では冬越しができず死んでしまいます。



オツネトンボ (越冬)

ホソミオツネトンボでは、左右の翅の縁紋が重なるので



すが、オツネンは左のように重なりません。



クロコノマチョウ

薄暗い林内で活動する大型のチョウです。晩秋、気温が下がっても活動します。茶色一色なので落ち葉に止まったらみつけにくくチョウです。



ノスリ

頭上高く、林のすき間を南から北の方に4羽が次々に通過しました。ノスリの渡りに出会ったようです。分散して単独で冬を越します。



ヒヨドリバナ

早いものは7月半ばから白い花が付き、すでに種になっています。葉は長楕円形の単葉です。同じ仲間のフジバカマは葉が三裂し、芳香のある赤紫の花を咲かせます。



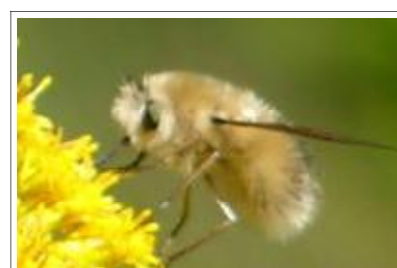
ワタヘリクロノメイガ雄

白黒のはっきりした模様の蛾を見ていたら、尻尾がゆっくり左右に動きました。まるでチアガールのポンポンです。幼虫はワタやウリを食べます



キチャハツ

草地に生え、直径7~8 ㍍の茸です。湿った傘を触ったら少し粘つきがありました。今年は茸は少ないようです。



(上)トラツリアブ、(下)スキバツリアブ、この仲間は寄生性